

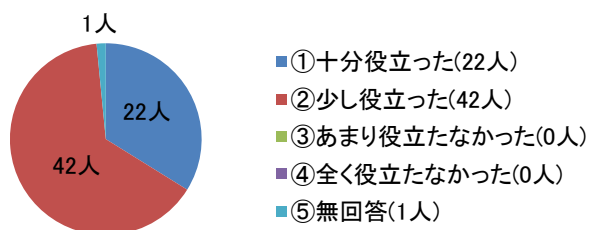
研修会に参加された先生方、お忙しい中ありがとうございました。今回の研修会では医療制度改革の観点から今後の薬剤師に求められることは何かを知っていただくことを目標に開催致しました。アンケートでは「今後薬剤師として努力をしていかなければと実感した」や「医療用語の解らないものが多かった」など様々な意見がありました。今回の演題はテーマが大きかったこともあり、皆様からご質問を多くいただきました。下記にて一部を抜粋して掲載しておりますのでご覧ください。また、どういった方と情報交換を希望されますかという項目では、前回同様ケアマネ、訪問看護師やヘルパーが挙がっておりました。が、それ以外に薬剤師同士の交流を希望される声も多くいただきました。今回の結果を踏まえ、今後も薬剤師同士の情報交換会を継続していきたいと考えております。さて、今回のアンケート結果で参加者状況を分析しました。84名中、在宅実施件数0は27名、1～9件/月は20名、10件以上/月は15名でした。在宅未経験者からベテランの先生まで幅広く参加されていることがわかりました。また、84名中33名は3回とも在宅推進研修会に出席されており、これはこの会がリピーター率約40%という嬉しい結果を示しております。これからも先生方に継続して参加していただける研修会となるよう企画していきたいと考えております。次回はいよいよ事例検討会の導入を検討しております。今後ともよろしくお願い致します。

～ 地域連携担当部会一同 ～

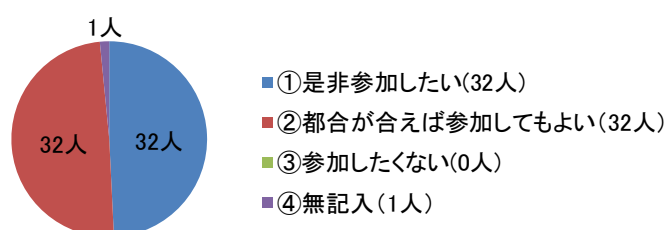
開催日時：平成26年5月29日（木）20：30～ 平成26年5月31日（土）15：00～ （2日間）

参加者：29日 42名（薬局 37件） 31日 42名（薬局 31件） 合計84名 アンケート回答：65枚

### 1、今回の研修会の内容は役に立ちましたか？



### 2、事例検討会や情報交換会に参加希望されますか？



## 「第3回在宅推進研修会」の良く分からなかった点、疑問点についての回答（アンケートより抜粋）

#### ■ 病院の方の在宅メリットは？

- ① 後方支援としての入院患者の確保
- ② 入院医療の厳格化の一環として、「在宅復帰率」がより問われるようになったことから、「在宅復帰した患者」に対する病院医師の継続診療がニーズとして高まることも予測される。
- ③ 200床未満病院にあっては、かかりつけ医としての役割発揮が診療所と同様に求められることから、外来では「地域包括診療料」の算定、外来困難患者における「訪問診療」での役割発揮が求められる。

#### ■ DPC病院の話で、後発医薬品係数の置き換え率ですが、これは院内で使用される薬品であって院外処方として後発医薬品を使う事のメリットはないのですか？

DPC病院における後発医薬品の数量ベース評価は、手術を含む入院中の使用医薬品に加えて退院時処方も該当します。退院患者さんが、外来受診時に退院時処方の後発品となる可能性が高くなり、結果 調剤薬局における後発品数量ベースの向上に寄与する可能性が考えられます。

#### ■ どうして2025年を見据えてなのか

2025年（平成37年）は、団塊の世代（昭和22年～24年生まれの方々と、昭和20年に第二次世界大戦が終わり、第一次ベビーブームと言われるぐらいに数多くの出生者がおられます。）の方々すべてが75歳以上の後期高齢者となられ、現状1年当たり100万人強の死亡者数が、2025年以降しばらくは160万～170万人の多死時代が予測されています。すでに日本は国民1人当たり800万円もの赤字を抱えている状態ですが、現状の医療費40兆円が2025年には60兆円を超える予測であり、今の内から手を打っておかなければ大変な状況が予測されるため、平成24年度診療報酬・介護報酬改定をはじめにした社会保障制度改革が行われています。

※アンケート結果の詳細については今後堺市薬剤師会ホームページに掲載する予定です